

ミントの会 10年の歩み

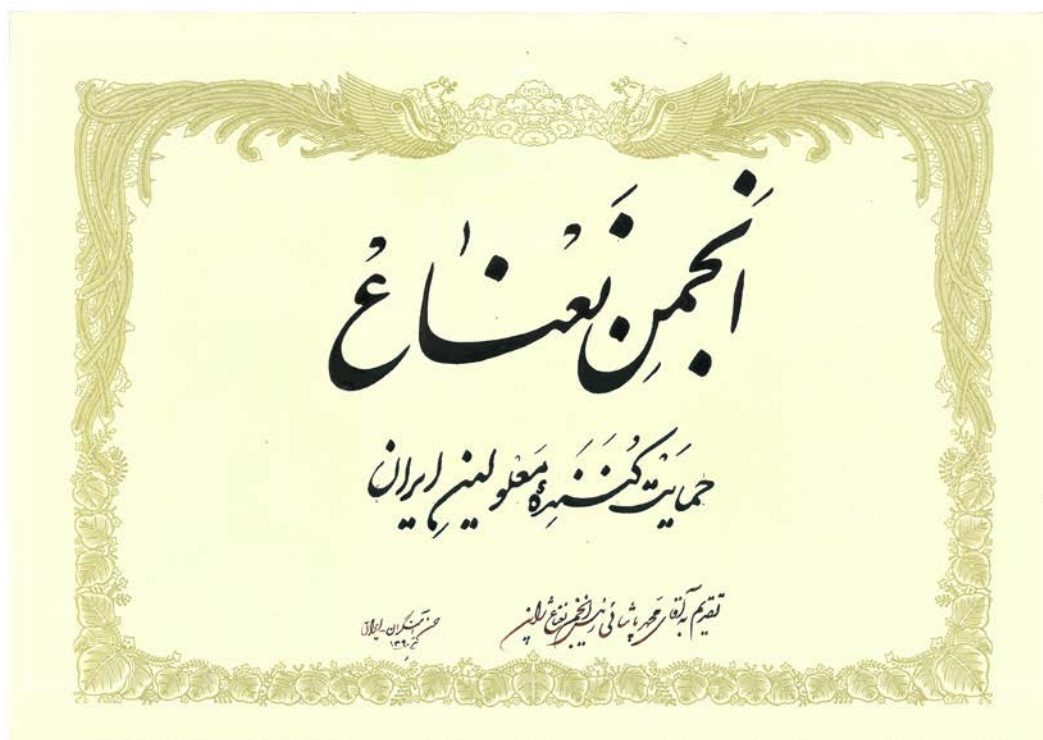


世界中の誰でもが 自立した生活を できるように



特定非営利活動法人
イランの障害者を支援するミントの会

イランの障害者を支援するミントの会



「イランの障害者を支援するミントの会」を表すヘルシャ語ですが、イランの書道家に書いて頂きました。

所轄庁	神奈川県
主たる事務所の所在地	神奈川県秦野市
代表者氏名	PASHAI MOHAMMAD
設立認証年月日	2010 年 01 月 21 日
定款に記載された目的	この法人は、イランの障害者に福祉機器を届け、リハビリを行い、自立した生活を送れるように支援するとともに、日本に住む人たちとイランの障害者とその家族の国際交流が図られ、日本とイランのお互いの文化や生活が理解されることを目的とする。
活動分野	保健・医療・福祉／国際協力
法人番号	8021005004605

目次

ミントの会 10 周年に当たって.....	5
理事長 パシヤイ モハメッド	5
ミントの会 10 周年によせて	6
今西 正義 さん	6
寺島 薫 さん	7
土屋 辰夫 さん	10
福永 順彦 さん	12
宮地 成子 さん	14
藤縄 光留 さん	15
石倉 誠司 さん ご夫妻	16
イランミントメンバー	17
秋山 佳世子さん	18
モスレヒ ファテメ さん.....	19
大澤 孝明 さん	20
大澤 照枝 さん	21
活動の歴史	22
イランでの活動年表.....	22
日本での活動年表	23
助成金表彰.....	24
活動の記録（グローバルフェスタ パネル）	25
2010 年 日比谷公園にて	25
2011 年日比谷公園にて	27
2012 年日比谷公園にて	30
2013 年日比谷公園にて	33
2014 年日比谷公園にて	36
2015 年初めてのお台場プロムナード公園にて	39

2016 年お台場プロムナード公園にて.....	42
2017 年お台場プロムナード公園にて.....	45
2018 年お台場プロムナード公園にて.....	48
2019 年お台場プロムナード公園にて.....	50
おわりに	52

ミントの会 10 周年に当たって

理事長 パシャイ モハメッド

10 年を振り返って



10 年間、いろいろな人に支援していただきありがとうございます。

自分は障害者になって障害者の気持ちが分かるようになりましたが、障害者にならなかつたらわからなかったと思います。今までの出会いで教えてもらうことが多くあり、出会いを通して笑顔になる人がいましたが、悲しい出来事もありました。出会った人の何人かが、亡くなりました。

その一人のイランの頸髄障害者の男性は 20 才代でしたが、家族はその障害をよく知らずに介護をしていました。ある日、クリニックから褥瘡の件で電話があり、男性はひどい褥瘡だったので手術を勧めたけれどお金がないので無理ですというがどうすればよいかという相談でした。薬局に薬を取りに行くように話しましたが、家族は恥ずかしいと言って取りに行きませんでした。イマームホメイニ病院に電話して、自分の兄弟に付き添ってもらい入院、輸血や褥瘡の手術をして無事帰宅することができました。ところが今度は腹痛を訴えつらそうな声で本人から電話がありました。急いでタクシーを飛ばし行ってみると尿道カテーテルが真っ黒くつまっていたため、カテーテルを入れ直し良くなりました。病院で一度検査するように、水を飲むように言って私は日本へ戻りました。帰り際に彼から「今度イランへ来るときにお土産に時計を買ってきて・・」と頼まれたのですが、時計を渡すために連絡した所、彼は2週間前に亡くなったと聞きとてもショックでした。もっとできることはなかったか？と今でも深く心に残っています。

自分のやっていることに不安になることがあり、もっと活動をやらなくてはと感じることがあります。ただここまでやるのがやっとでした。障害を持つとできないことがたくさんあります。例えばできると思ってちょっとした段差が乗り越えられない悔しさがあります。

10 年の活動で自分自身すごく勉強になりました。たまには疲れてもういいやと思ったこともありましたが、障害者の人たちからのメールや電話での喜びの声、感謝の言葉を聞くと、もっと頑張らなければと思います。子供の時に聞いた「人の役に立てばいつか自分に返ってくる」という言葉を思いだしました。



ミントの会 10 周年によせて

今西 正義 さん

ミントの会の 10 周年に思う

今西 正義

「ミントの会」の十周年おめでとうございます。

継続は力なり、日本には「石の上にも三年」、「壁に向かって九年」という言葉があり継続の賜物です。イランでのバリアフリー事業については、私は人をつないでだけで、後はパシャイさん始め多くの皆さんの努力と情熱により、事業が続いたと思います。バリアフリー事業をイラン全土に広げてください。

日本では半世紀前ほとんどの地域がバリアだらけでした。1960年代に仙台で障害当事者と大学生のボランティアにより、町の点検を行いました。道路と歩道の段差や建物の入り口の階段、映画館の車椅子で入れるトイレなどをチェックしました。当事者による福祉の街づくりのチェックです。問題点については行政に改善を求めたりして、活動をしてきました。

こうした活動は日本全国に広がり、各地で点検活動がおこなわれ「福祉の街づくりガイドブック」が作られました。こうした活動を行った各地の人達が二年に一度、各都市を持ち回りで「障害者市民フォーラム」を開催してきました。ここではバリアフリーだけではなく就労や学校での就学など様々な問題を議論する場として当事者が中心になり、行政への施策を提案するなど活発に活動し社会的障壁を取り除く運動になりました。

重要なのは当事者が自分の目でチェックをし、改善に向けた具体的な提案を作ることです。イランのバリアフリー事業でも行政が中心にやるのではなく、当事者の人達を育てていく必要があります。町づくり始めとして物づくりでも計画段階から、施工、完了までの PDCA サイクルの各プロセスに当事者が加わり評価をして提案をしていくという仕組みをしっかりと作ることが重要です。

今後はこうした人材を育成するプログラムを構築することに取り組んでください。こうした人材がイランの各地から集まり、それぞれの地域に戻り各都市の施策づくりに当事者として実質的な参画を果たしていくことを期待しております。



寺島 薫 さん

■キャラジ市で、障害当事者参加のバリアフリーまちづくりに携わって

(株)アークポイント 寺島 薫

(1) 発端

・2012 年の4月初頭、DPI 日本会議の今西氏の紹介で、パシヤイさんと大澤ご夫妻にお会いして、このミッションに出会いました。そして6月にはテヘランの西に位置するキャラジ市に降り立ち、2019年まで8年・8回にわたり、プレイスの福永氏、宮地さんと3人でキャラジ市を訪問し活動してきました。

・イランの街の印象は、青い空とベージュ色のアルボルズ山脈、同じベージュ色の街並み、その中に色鮮やかなドームを頂くモスクとまちのいたる所に掲げられた赤 白緑3色のイランの国旗で、この風景が中東のまちにいることを感じさせました。それは今も同じですが、今は“キャラジに帰ってきた”という気持ちになります。特に2013年、2度目にイマムホメイニ空港に降り立ち、通関して入国した時、再び舞い戻ってきたことを実感した時が、強く記憶に残っています。



市役所から市内を望む(2018)

(2) 市民参加のバリアフリー (BF) まちづくり

①BF まちづくり研修の考え方

・渡航の目的は、日本での BF まちづくりの取組みの紹介と、BF のまちづくりが進むと、どうなるかを知って頂くことが第1点。

・第2点は、日本とイランのまちの構造は異なるので、イラン (キャラジ) のまちに適した BF が必要で、そのためには日本の BF 技術の提供ではなく、BF を市役所職員と、地元の障害者が一緒に考えて、キャラジらしい BF を作り上げていく“方法”をお伝えすることにしました。そのためには、市役所職員と障害のある当事者が一緒に検討すること、現場に出向き、現場に合った BF を障害当事者と共に検討することを身につけて頂くことがポイントになると考えました。



チャラヘ・メスパ通り(2014)

②日本の障害当事者参加のバリアフリーまちづくり

・実はこのプログラムは、日本で先進的に BF に取組んでいる自治体が、実践してきた手法です。その意図が、8年間の取組みで、キャラジ市の市役所職員や障害当事者にも徐々に伝わっていききました。

実は日本でもしっかり取り組んでいる自治体は多くないのです。

③今後の進め方、めざす成果

- このプログラム、即ち障害当事者参加の検討手法を、キャラジ市のBFのまちづくりの仕組み（制度）として定着させたいと考えています。さらにその結果として、従来のイランのBFのスタンダードを障害当事者の視点から見直して、障害当事者に使いやすい改訂版を目指し、キャラジ市版のBFのスタンダードを作成し、市のBF担当者に共有できれば、と考えています。それは新たにBFに取組む技術者にBFの基本を伝えるため、これをテキストに障害当事者参加の検討手法については、先輩職員と障害当事者市民から受け継いで行ければと思います。



ベヘシティ通り(2019)

④ベヘシティ通りで始まったBF改修工事

- キャラジ市随一の繁華街であるベヘシティ通りのBF改修工事が、今年度から始まりました。ここ3年にわたりベヘシティ通りで、市の職員と障害当事者が共にBFまちづくりのWSに参加し、BF改修設計について検討してきましたので、質の高いBF整備を好事例として示すことができると思います。そしてそれが今後の整備に参考となるようになると期待しています。

（3）その他のバリアフリーの取り組み

- ミントの会が実施してきたBF研修に参加した市の技術者は、道路や公園の整備の機会をとらえて、各地でBF整備を進めています。
- 道路（歩道や横断歩道など）の整備、公園、車いす対応便所などにBFの考えが反映しています。ただ今後はこれら整備した結果を、実際の利用者（主に障害のある人）に使って頂き、本当に使いやすいか、改善点は無いかな、検証を行っていく必要もあるかと思っています。



ミント公園(2015)



マーハン通りサークルの園路(2019)



バゲスタン公園のトイレ(2017)

（４）今後の取組み

- ・今後、市が公共施設（道路、公園、公共施設など）の BF 整備を進めて行くにあたり、障害当事者参加をしっかりと組んでいく必要があると考えています。既にミントの会の理事長のパシャイさんは、（ボランティアで）キャラジ市の BF に関する顧問に就任していて、様々な事案の BF に関して相談に乗っています。また BF 整備に際しては、市の技術者が主体となって、障害当事者参加の検討の場を設けて、運営できるように、人材の育成を目的に我々の BF 研修と並行して勉強会を開催し、そのメンバーが中心となって「BF ネットワーク会議」が毎月開催され、参加者自ら取組みの課題を設定して検討を深めていきます。
- ・今後も次のステップの課題にチャレンジして、キャラジ市での BF まちづくりの普及を支援すると共に、進化させていきたいと思います。（寺島）

土屋 辰夫 さん

「20 周年を目指しましょう。」

(寄稿) JICA シニアボランティア 理学療法士 土屋辰夫



ミントの会 10 周年おめでとうございます。ミントの会との出会いは 2015 年でした。長年勤めていたリハビリテーションセンターを退職したという絶好のタイミングで大澤ご夫妻やパシャイ会長に誘われて、看護師である妻と共に初めてイランへ渡航しました。お役に立てたかどうかは定かではありませんが、交流したイランの人々はおおらかで親切、そしてなにより親日的だったことが印象に残っています。その 2 年後に

は再び渡航し、日本の保健福祉事務所にあたるベヘジシティーの全国大会で「日本における障害者のリハビリテーション」について講演する機会を持つことが出来ました。

それから 5 年、以前から海外での仕事に興味を持っていたこともあり、ミントの会での活動の他に、JICA シニアボランティアとして途上国のミャンマーやタジキスタンでリハビリテーション技術の支援をしてきました。特にタジキスタンはイランに地理的にも歴史的にも近い国で、同じペルシャ語を起源とする言葉を話す、優しい人々の暮らす中央アジアの山国です。この国の医療専門学校に昨年夏から赴任し、ほんの 1 週間前まで理学療法士の教育に従事していました。



しかし、この 2020 年は何という年でしょう。世界中にコロナパンデミックが吹き荒れています。イランにおける甚大な被害にも心が痛みます。そして、3 月 18 日には JICA ボランティアに一斉引き上げの指令が出されました。

私は今、一時帰国して2週間の自宅隔離のさなかにこの文章を書いています。日本には優れた技術があり、いろいろな国から支援の要請があります。そして支援は継続することが大切です。もう一度タジキスタンに戻りたいと思っていますが、かなうかどうかは分かりません。政府レベルの判断に委ねられているからです。

それに比べると、自立した団体であるミントの会には強みがあると思います。このような困難の中でも、自らの判断でしなやかに活動を継続する力があるからです。

継続は力です。「イランの障害者を支援するミントの会 20 周年」を目指しましょう。

福永 順彦 さん

「ああ、イランに来たな」と思うこと～ミントの会 10 周年に寄せて～

バリアフリーまちづくり支援チーム 福永順彦

大ぶりの空港ビルを出るときに皮膚を流れていくような風

ダッシュボードから流れる大音量のなぜか懐かしい旋律

誰にも使われていないどこまでも続く平地の中の土壁

街角のドームをつなぐ紐飾り 祈りの時を知らせる拡声器

白い幹 薄緑の葉 桑の実 えんじゅのようにおもえる街路樹

でっかいアパートの黒い鉄製の門から出入りする子どもたち

きれいに手入れされた花壇に水をまいている門番のおじさん



平常心で車間距離をぎりぎりに詰めて走る高速道路

いたるところにあるロータリー その中央にある大きな看板

ドンという音がいちいち鳴るハンプ どこでも好きに渡る歩行者

左折するときにはわざわざ分離帯の切れ目まで行って戻ること

食料もシャンプーもなんでも売っている間口のせまい雑貨屋

バルバリやサンギャグをむき出しのまま持って出てくるひげ面の客

山積みのハーブの上にかけてられた水を含んだ厚い麻布

極彩色のゴシックがペルシャ文字 売られているのがアイスクリーム

サラームは最初の日から 2 日目はスツと出てくるソーブベヘイル

米から出てくるケバブと焼きトマト 二人前かと思えるランチ

たっぷりの紅茶と甘いお菓子和キュウリがでてるティータイム

食べ放題のサラダを取りに行くと麦のスープのスペジョーの香り

ゴルメサブジとドゥーグが基本じゃないか自分の中のペルシャ料理

皿の青、米の白、サフランの黄色、ハーブの緑、コーラの赤

昼間からにぎわう公園を走るカップルもいるマウンテンバイク

ヒジャブははなやか チャドルは颯爽 握手とハグと写真の嵐

風景を思い出しながら書いているとイランに行きたくてたまらなくなります。当たり前のように毎年行けていたことが実は当たり前でなく、幸せで奇跡のようなことだったと思います。平和であることがこんなにも大切に感じられることはありません。イランの障害者を支援するミントの会が10年続いたことは、それだけいろいろな人を通して、イランと日本を深くつなげてくれていたのだと思います。感謝と御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

宮地 成子 さん

イランの人々の羨ましいコミュニケーション力

場所づくり研究所 place 宮地成子



「ハッセナブシ」は、「ホシマザーズ (美味しい)」の次に覚えたペルシャ語です。ミントの会の代表パシャイさんが電話をする時、何度も繰り返していたからです。これが「お疲れ様」という意味だと知ったのはだいぶ後で、日本人以上に「お疲れ様」を伝えあいお互いを労うことに驚きました。

今、私は日本で、UD 整備を進めることに加えて、人の対応の重要さを理解し、実際にコミュニケーション力を高め行動することに取り組んでいます。「席をゆずりたいが、タイミングがわからない」「ガイドの方法を習っていないからできない」との声は、日本では根強いです。そんな時、イランで出会った人々のコミュニケーション力を日本のみなさんに伝えています。

その1 電車で隣りあわせた人とおしゃべり

2012 年最初のイラン訪問時、通訳をしてくれたアキバリさんから聞きました。

どんな話をするか聞いたところ、「そうですね〜、素敵なスカーフね、どこで買ったの? とか」。えっ、ホント? その時はビックリしましたが、先日東京の電車内で、綺麗な黄色のインコが入っている透明なアクリル製の鳥かごを持っている若い女性に、「おしゃれですね〜!」と伝えることができました。イラン魂に一步近づけたかな?

その2 結婚式を挙げたカップルに、隣の車の窓から “おめでとう”

大通りを走っていたら、隣の車のフロントに花の飾り付けがありました。こちらの車を運転していたパシャイさんのお兄さん (だったかな?) がいきなり窓を開けてお祝いを伝えたところ、相手も窓を開けてニコリ。

この風景はまだ日本では難しいですね〜。



その3 通りすがりの外国人に赤ちゃんを抱っこ

まちを歩いていたら、赤ちゃん連れの親子に会いました。「かわいい〜」的リアクションをしたところ、「抱っこしてください〜!」通りすがりの見知らぬ人に赤ちゃんを抱っこさせるのは、人を信頼している証拠です。赤ちゃんより、私の方がビビっていますね。



その4 子どもにも “おもてなし” の役割

パシャイさんには、いろいろなお家に連れて行ってもらいました。食事の前に、果物やお菓子と紅茶で “おもてなし” はイランの定番ですが、その役を子どもも担います。こうやって、初めての人と接することに子どもの頃から慣れているからこそ、コミュニケーション力なのでしょうね。



その5 サインください

イランの小学校で UD の授業をした時のことです。ペルシャ語も日本の習字のような文化があり、生徒が漢字にとっても興味を示していました。授業終了後、まさかの「サインください」。好奇心旺盛、直球で質問してくる子どもたちに囲まれる人生初の体験をしたのでした。



これからもイランと日本の交流がさらに深まり、UD の取り組みが進むことを願っております。

藤縄
光留
さん



思いやり

家族

仲間



国際

支援



和

いろいろな経験をさせて頂きました。
つながりを大切に日々精進！
藤縄

喜び



石倉 誠司 さん ご夫妻

ミントの会設立 10 周年おめでとうございます。

ミントの会との関りは、2013年に電動車いすを引き取っていただいた事からです。神奈川頸損連絡会の会誌にミントの会のお知らせが出ていたのがきっかけです。当時はもちろんイランについてはほとんど知識もなく、正確な場所も知りませんでした。車椅子に続き、電動ベッドを引き取りに来てもらった際、「ペルシャ料理講習会」を始めるんですとお話を聞き、楽しそうだと参加を決めました。

第1回目は「ゲイメ、サフランライス、シーラーズサラダ」。ゲイメはナスと豆と肉を煮込んだシチューでした。サラダにはたっぷりのミント。ライスは日本のお米とは全く違う細長いバスマティライス。シチューにはドライレモンという初めての食材も。それぞれ素材の味が生きてとてもおいしかったです。また、食材だけでなく調理法も異なり、あまりな板を使わない切り方に驚きました。ファテメ先生とは言葉は通じませんでしたが、身振り手振り何となく、おいしいことは伝わった気がします。そうそう、おいしいは「ホシュマゼ」でした。イランの女性は料理に3時間もかかると教えてもらい、食を大切にしているのだなあと感心しました。料理講習会の合間にはパシャイさんからペルシャ語も習い、自己紹介や、数字の読み方、書き方、食材の名前など楽しく教えていただきました。12回の講習会はこの料理もおいしく、そしてイランの事をたくさん知ることができたよい機会でした。

総会や報告会ではバリアフリーの専門家の方々がイランで行ったバリアフリーのワークショップについてお話があり、イランの子供たちが熱心に聞いて参加していました。街づくりなど幅広く活動されている写真を見て、素晴らしいなあと思いました。ほかにも、リハビリや看護の専門家が障害者の個人宅に伺い、日常生活についてやリハビリ、看護についてのアドバイスを行っていて、当事者だけでなく家族も笑顔になっていったところが印象に残りました。電動車いすに乗り、外出する姿を見ると嬉しくなりました。

ミントの会と関り、イランについて知ることができ、イランの障害者の現状も知ることができてよかったです。これからもミントの会がイランの障害者のために幅広く活動されることを期待しています。

石倉



イランミントメンバー

ミントの会とともに過ごして・・・

イランミントの会スタッフ

パシャイ ソフバトオラ氏



アミール ダラビ氏



両名は日本から届けた車いすなど福祉機器の保管管理や修理をおこない、必要に応じて障害者のもとに安全な福祉機器を届けています。

日本人専門家がイランを訪問した際に送迎の手伝いなどをしていただき、とても頼りになるスタッフです。

障害者の自宅訪問の際も、家族と生活相談するのも重要な役割です。

コメント

ミントの会の活動で、日本の皆様にたいへんお世話になりましたありがとうございます。

言葉では言い表せないくらい感謝しています。

イランと日本の交流が続くようにねがっています。

秋山 佳世子さん

10 周年記念おめでとうございます。

パシャイ代表始め、ミントの会のみなさん、応援して下さいと出会えたことに心から感謝します。

私は 2014 年のグローバルフェスタでミントの会と出会いました。パシャイ代表をはじめ、プロジェクトに携わっている専門家のみなさんの真摯な姿、ミントの会のみなさんの温かい人柄に惹かれ現在に至っています。

2016 年に初めてイランに行き 2019 年まで 4 年間、リハビリ・ホームプロジェクトに参加させて頂いますが、行く度に新しい出会いと再会があり、イランに大切な人が増えていくことが嬉しく、奇跡のように感じています。

またイランでは朝の散歩、モスクに行った際など、よく声をかけてもらいます。みなさん明るく元気！そんな写真の一部と、在宅訪問の際の素敵なご家族の写真です。子供達のお母さんの兄 2 人が難病であり、褥瘡(床ずれ)の傷を見てほしいとセミナーに来られたことで出会いました。もう一枚は、自分の体と葛藤しながら向き合うお父さんを家族みんなで見守り、支えているご家族の写真です。

紹介したいイランの人々、エピソードが山のようにあります。そして、イランに行くといつも家族の絆の深さを見て、日頃忘れてしまいがちな大切なことを教わります。イランの障害児者、ご家族のみなさん、ミントの会の皆さんが健康で、日常を笑顔で過ごすことができることを心から願います。

ミントの会 理事・作業療法士 秋山佳世子



モスレヒ ファテメ さん

ミントの会 10 年を振り返って

スタッフ モスレヒ ファテメ

初めてミントの会の活動を知ったのは、秦野市堀川公民館の会議に行った時で、その日は丁度パシャイさんの誕生日でケーキを買っていきました。野の花サービスの方たちやたくさんの方がいましたが、出会う人は少しずつ変わっていきました。

まだそのころはバリアフリー活動はやっていなかったと思いますが、日本で中古の車いすや電動ベッドを受け取りに行くようになりそれは大変でしたが、日本人が一生懸命やっているのが分かりました。これほど大変なことをやっているのをイランの人たちは知らない。私も見ていなければ知らないで過ぎてしまったことでしょう。

ミントの会はほかにも活動を行っていました。イランの褥瘡のある人を手助けしましたが、初めてみて自分には褥瘡は見れないと思いましたが、一生懸命やっていることを感じました。

バリアフリー活動の打ち合わせをやっていた時のことです。今までキャラジ市ではほとんど知られていなかったのですがワークショップを実際にやってみて、わかっていると思っていたことがそうではなかったと思います。今、バリアフリーが進んでいるのは、日本の先生たちのおかげだと思います。

日本で私がおこなったペルシャ料理講座は初め難しかったけれど、徐々に楽しくなりました。日本人がイランの料理を食べられるのか心配でしたが、いい体験ができ人が集まって話をすることができてよかった。みんなで一緒につくり、料理できたのがすごくよかった。

子供のころ日本の映画を見たことがあり、一度日本に行きたいと思っていました。神様が日本に行かせてくれたと思います。ミントの会でいい友達がたくさんできました。ありがとうございます。



大澤 孝明 さん

ミントの会の 10 年を振り返って

人との出会い。

初めて、身近に障害者を感じました。そして、そこから未知の世界が広がりました。

2008 年ころ、パシャイを知り、イラン人のコミュニティーを知り、サーベリー先生を知り、細谷先生を知りました。

アリ・シアマックさん、レザさん、ホッセインさん、そのほか多くのイラン人の方の多くの寄付と協力により、車いすや電動ベッドをイランに送ることができ、活動の後押しをしてもらいました。電動ベッドを頂いた石倉さんご夫妻には、秦野まで何度も足を運んでももらいました。



細谷先生から、はがき通信の皆さんと出会い、バーバリー女史を知り、NHKイラン支局の中山さんを知りました。

はがき通信の皆さん、神奈川頸損連絡会のみなさん、小菅さん、宮島さん、本間さんには、たくさんのことを教えてもらいました。

村上さんには、取材をさせてもらい、DVDを使わせてもらい、いつも明るく力強く応援してもらいました。2016 年 6 月永眠され、残念でたまりません。

パシャイの参加したDPI当事者リーダー研修から、今西さんを知り、高橋儀平先生と会い、そして、寺島さんと会うことができました。寺島さんから宮地さん福永さんと会うことができました。

パシャイが入院していた神奈川リハビリテーションセンター病院から、土屋先生、玉垣先生、土屋まさみさん、大塚先生、藤縄先生、辻村先生と知り合うことができました。

ホームページやグローバルフェスタから、小山かなこさん、岸博昌さん、遠藤七郎さん、そして現在幹事をやっている秋山さんと知り合うことができました。

パシャイ、パシャイのお兄ちゃん、お父さん、お母さん、妹、甥っ子、姪っ子。ファテメさん、ソマイエさん、アミールさん、ゴメシイさん、アルジョマンさん、ジャワディさん、ナシリさん、ガセミさん、ランジケツシさん、イランにたくさんの友達ができました。

多くの皆さんに支えられてミントの会の活動することができています。これからたくさんの方達にミントの会を知ってもらい、いろんな人に会えるようにして行きたいです。



大澤 照枝 さん

ミントの会 10 年を振り返ると・・・ 理事 大澤照枝

人との出会いが、想像以上に活動への活力につながった！

日本で仕事上の事故のために車いすを利用して生活するようになったイラン人のパシャイ氏と訪問看護師として在宅支援した私は、イランの障害者生活の困難な現状を知り、福祉関係者と協力して「NPOイランの障害者を支援するミントの会」を設立しました。

団体の特徴は当事者が主に活動にかかわっているということ、つまりそれは当事者が感じるパワーを活動に生かせることで、事業継続の原動力になりました。パシャイ氏自身がイラン人で車いすを利用している障害者であること。会員メンバーが障害当事者・障害支援関係者・在日イラン人達なので情報収集や専門的な支援に結びつきやすい利点がありました。

現地イランの障害者支援活動は、ホームケア活動・バリアフリー活動を中心として、クリーンキャンペーン・子供達への障害学習支援を実施。日本国内では障害者参加のペルシャ料理講座、市民へのイラン理解講座を実施。そのような中で徐々に活動に賛同する人が増えていったのが大きな喜びで、もしこの活動を行っていなかったら知り合うことのできた人々との出会いは、何にも代えがたい財産となりました。さらに訪問看護師を続けながらNPO活動を行うのは時間的に厳しい面もありましたが、自分の持っている知識や技術を使いイランで活動できることは大きな励みになりました。

特にこの活動で私が心に深く残っているのは、イランの障害者の自宅訪問活動です。10年間の自宅訪問回数は100件を超えました。毎年10件以上訪問している計算になります。イランの障害者の自宅に行ってみると部屋の中が整頓され、家族がよく介護しているのがわかります。リビングの中央にベッドがおかれ家族の顔や声が近くにあります。ただ障害のレベルから見るともっと自分の体を動かし外出できるのに、なぜ褥瘡ができてしまうのか？十分介護の知識を伝えられたか？感じるがあります。日本の専門家の持つ技術や知識を伝えてもっともっと元気に過ごしてほしい。これからもイランの障害者の自宅訪問をおこない、出会いを大切に楽しみながら活動が続けたい、応援よろしくお願いします。

2011 年神奈川県内で会員のバーベキュー 2014 年玉垣先生と自宅訪問に行って・・・



活動の歴史

イランでの活動年表

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
福祉機器送付事業	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
	日本から福祉機器をイランへ届け利用した。（車いす約300台、電動車いす59台、電動ベッド38台、リフト段差昇降機、ジンリキ、ロホマット、エアマットなど）										
ホームケア研修会	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	日本のリハビリ・看護の専門家とピアカウンセラーがイランを訪問し、NGOテヘラン脊損協会・キャハリザクキャラジ障害者施設・イマームホメイニ病院・NGOナセリと協力して障害者や専門家向けの研修会を実施し、DVDや冊子を配布した。										
障害者自宅訪問活動	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	日本のリハビリ・看護の専門家とピアカウンセラーがイランの障害者の自宅を延べ100件訪問して、生活技術を情報提供し具体的なリハビリ方法を伝えた。										
バリアフリーワークショップ			☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
	日本のバリアフリーとユニバーサルデザインの専門家・バリアフリー当事者リーダーがイランを訪問し、障害体験や街歩きを通して歩道や公園の整備のワークショップを行い、キャラジ市役所職員や障害当事者・イラン各地の行政担当者に伝えた。										
こどもたちの障害学習ワークショップ					☆	☆	☆	☆		☆	☆
	日本のバリアフリー・ユニバーサルデザインの専門家・バリアフリー当事者リーダーがイランを訪問し、日本の江東区を参考に、誘導ブロック・車いす体験・視覚や聴覚障害理解のワークショップを学校などで実施した。										
クリーンキャンペーン						☆	☆	☆			
	イランのキャラジ市とテヘラン市で研修会の後に、障害者や行政担当者らが街づくりをアピールする為実施、キャラジ市やNGOの協力で月1回実施した。										

日本での活動年表

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
イラン専門家訪日研修	☆	☆					☆	☆		☆	
	頸損のイラン福祉省職員やイマームホメイニ病院医師・理学療法士らが神奈川リハビリテーション病院等で研修を受けた。またキャラジ市役所やアルボルズ福祉省のバリアフリー担当者が日本の行政機関で街づくり技術研修を受けた。										
ペルシャ料理講座				☆	☆						
	イラン人夫妻が講師となって、秦野市堀川公民館でペルシャ料理講座を12回実施した。障害者が一緒に参加しイランの家庭料理を作り味わいペルシャ語も教えた。										
イラン理解講座				☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
	グローバルフェスタ・横浜国際フェスタで活動をパネル展示し、茅ヶ崎高校やイラン大使館・ほどがや国際ラウンジで市民向けのイラン紹介と活動紹介を行った。 また、専門家が街づくり学会や作業療法士学会で活動をアピールした。										

助成金表彰

活動助成金と表彰

活動助成金

年	プロジェクト	助成元
2010	イランの障害者支援事業	日本財団
	イランの障害者支援事業	JICA横浜はじめての一步
2011	イランイスラム共和国における障害者支援プロジェクト	かながわ国際交流財団
	イランの障害者への訪問看護支援	世界の人々のJICA基金
2012	イランイスラム共和国の障害者バリアフリー支援事業	かながわ国際交流財団
	イランの障害者支援	日本国際協力システム
2013	イランイスラム共和国の障害者支援事業	かながわ国際交流財団
2014	イランピアサポートセンター支援事業	日本国際協力財団
	障害者参加のペルシャ料理講座	俱進会
	イラン障害者ホームケアプロジェクト	草の根市民基金ぐらん
	イランのバリアフリー支援事業	大阪コミュニティ財団
2015	イランピアサポートセンター支援事業	日本国際協力財団
	イラン障害者ホームケアプロジェクト	草の根市民基金ぐらん
	イランの子供たちのバリアフリープロジェクト	大阪コミュニティ財団
	イランアラーク市の人材育成事業	世界の人々のJICA基金
2016	イランピアサポートセンター支援事業	日本国際協力財団
	イランのバリアフリー支援事業	日本国際協力システム
2017	イランデイケアセンター支援事業	日本国際協力財団成長型
2018	イランデイケアセンター支援事業	日本国際協力財団成長型
	イランバリアフリー支援事業	JICA草の根技術協力事業
2019	イランデイケアセンター支援事業	日本国際協力財団成長型
	イランバリアフリー支援事業	JICA草の根技術協力事業
2020	イランデイケアセンター支援事業	日本国際協力財団成長型
	イランバリアフリー支援事業	JICA草の根技術協力事業
	イランの障害児デイサービス支援事業	アジア生協協力金
2021	イランバリアフリー支援事業	JICA草の根技術協力事業

表彰

年	受賞	表彰者
2011	横浜国際協力賞	横浜NGO連絡会
2012	神奈川県ボランティア活動奨励賞	神奈川県
2018	日本大使館在外公館長表彰	在イラン日本大使館

活動の記録（グローバルフェスタ パネル）

2010 年 日比谷公園にて











地震と津波の被害を受けた岩手の人たちのため、ミントの会の会員がケバブやイランスープなどで炊き出しを行いました。

野菜や肉をもって、夜通し東北自動車道を走り、明け方から準備をしました。およそ2000食を食べて頂きました。

イランの障害者を支援するミントの会



団体の歴史

2006年 任意団体とし
活動開始
2010年 NPO法人認証

2011年9月までの実績

- 福祉機器の送付・使い方指導
- 車いす: 118台 電動車いす: 8台 電動介護ベッド: 8台
- リハビリDVDの作成・配布 620枚
- せき損ケア手帳の作成・配布 2000部
- リハビリ・介護の専門家の交流 のべ21人



みずたばこセット

各地で呼び名は異なるものの、専用の香り(フレーバー)付けがされたタバコの葉に炭を載せて熱し、出た煙をガラス瓶の中の水を通し吸うという構造になっています。

各地での名称

ガリヤーン(ペルシア語)
シーシャ(アラビア語)



2012 年日比谷公園にて

ミントの会の紹介



私たちの活動

- ・ピアカウンセリングによる相談活動
電話、メール、直接訪問によって、障害者の日常生活の不安に
応えています。
- ・福祉機器の寄贈
日本で寄付していただきたい車いす・電動ベッドをイランへ届け
ています。
- ・障害者の日常生活に役立つ研修活動、資料の配付
リハビリ、看護ケア、福祉用具などの研修
福祉機器、用具の使い方の指導
ハビリDVDの作成
配布、看護ケア手帳の作成・配布
- ・専門家の交流
リハビリ・介護専門家の日本での研修
訪問看護についての研修
- ・バリアフリー研修
イラン地方自治体担当者に対してバリアフリーの町作りのワー
クショップ

団体の歴史

2006年 任意団体とし活動開始
2010年 NPO法人認証

活動実績

2012年7月までの実績
・福祉機器の送付・使い方の指導
車いす：162台 電動車いす：11台 電動介護ベッド：8台
・リハビリDVDの作成・配布 620枚
・看護ケア手帳の作成・配布 2000冊
・障害者の指導・指導予備のカートブック 2000冊
・リハビリ・介護の専門家の交流 のべ30人
研修活動
2011年
リハビリ研修（DVD使用）
日本のバリアフリー状況の紹介
2012年
障害者自身が生活に使用できる自動車の紹介
キャラジ市におけるバリアフリーワークショップ



懐かしさで家族がつききりで世話をしていた
今では生き生きと生活できるようになりました。

成り立ち

理事長のバシヤイ・モハメッドはイラン
から日本に来て、働いていたときに事故に
遭い、車いすの生活になってしまいました。
しかしイランにはもつと困っている人が
たくさんいます。
そこで、同僚の人たちとついにイラン
の障害者に車いすや介護ベッドなどの福
祉機器を届けてきました。



連絡先 e-mail: mint_assist@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://www.mint-assist.com/indexjpn.html>

障害者訪問活動



Aさん



Bさん



Cさん

Aさん 少し寝がやすんでいるのが気になりますが、貴さんが少しでも楽になるようにダイエットし、車いす
への乗り降りがひとりでできるようになりました。
研修会で紹介したユニバーサルカフを履き上げたところ、早速、ベンを使ってみて、ご自分と貴様の名前
を書いていました。

Bさん スールハーネの履帯を使って、リハビリをしているそうです。腎臓当時、落ち込んで投げやりにな
っていましたが、今年の訪問では、若いときにボクシングをやっていた熱を燃やしていきなすました。

Cさん ミントの会から差し上げた電動車いすを受けています。家にある手動式の血圧計で正確に計れてい
るが心配していました。貴様の血圧が高いのを心配していました。

リハビリと福祉用具の研修（1）



- ★DVDを使って、車いすでのリハビリ紹介
車いすに 肩つたまの 体操、起き上がり動作、ベッド乗り降り動作 説明
- ★日本の障害者の生活の中でよく使われている 補助用具の紹介
- ★研修の後、多くの質問がありました。 床ずれ、車いすが合わないなど。



リハビリと福祉用具の研修（２）



★福祉用具の研修

日本でよく知られている福祉用具の紹介
施設内で購入したユニバーサルカップと車いす用のグローブの使い方を
説明し、参加者にプレゼントしました。



日本でいろいろ工夫されて、使われている多くの自動具を紹介する
ことが出来ました。
爪切りやPETボトルの蓋あけなど、興味深く見ていました。

イランの看護者の方も、いろいろ工夫されていることも分かりまし
た。名刺交換は、キャバで使う金庫をスプーンと交換して、折り紙
で、手はめるところを作っていました。



ユニバーサルカ
ップで使えるでしょ
うか？
少しでも自分ででき
ることを増やしてく
ださい。



ボタン穴通しで、髪に入っ
たようです。



訪問看護に関する研修（１） イマム・ホメイニ病院にて



ミント会会員、協力者の看護教育者、訪問看護
師が、講師となって研修を行った。

- ★日本の看護教育制度と訪問看護の状況の紹介
- ★看護教育者に対する看護の役割
- ★日本の患者さん訪問看護を送迎した生活事例を紹介
- ★イランにおける看護事例について、グループ討議



Recipients of Nursing Care in Japan

Level of health	Preventive care	Terminal care
1. 健康な状態	健康な状態	健康な状態
2. 軽度の障害	軽度の障害	軽度の障害
3. 重度の障害	重度の障害	重度の障害
4. 終末期	終末期	終末期

- 研修後のアンケート結果
- 日本の患者さんの素晴らしい生活環境に驚いた。時間があれば、もっと、患者の困難解決について、話をしたかった。
- 家族の協力と理解、そして医師の協力の重要性に気付きました。チームのように協力すべきと感じました。
- イランの患者さんの問題は、経済、教育そして保険です。
- チームでの訪問看護、テレヘルスなどの方法が重要。
- チームで分けて話し合えたのは、とてもよかった。



訪問看護に関する研修（２）



キャハリザクでの訪問看護研修

一般の寄付により運営されている福祉施設キャハリザク
今回、研修を行ったのは、キャハラジ市のキャハリザク

現在、訪問看護、デイケアなどを実施していると聞く。今回の
研修に参加したのは、看護師、理学療法士、臨床心理士、そして
医師。

イランでも先進的な活動を行っている方たちとの情報交流は、
今後の訪問看護の普及にも重要である。

キャハリザクでは、日本とイランとの看護教育制度、訪問看護
体制の違いなどの議論が中心となつた。



キャハリザクのリハ
ビリ設備と専金庫



イラン・キャラジ市のBFまちづくり



キャラジ市の風景



キャラジ市街の北側に
そびえる5,000m級の
アルボルズ山脈の
緑の無い山々の岩肌



テヘラン郊外の高層団地と
緑の無い山脈（約5,000m）

キャラジ市の道路構造



【ハンフ】（路面の盛り上がり）
大規模道路でも、至る所にハンフが
あり盛っている。



【道路断面】歩道～水部街路側
～駅前駐車場～車道

当事者参加のBF/WSの概要

プログラム提供主体

- ・NPO法人イランの障害者を
支援するミントの会
- ・「かながわ国際文化財団」の
助成事業で実施
- ・BF/WSの専門家として、
寺島薫氏（崎アークポイント）
宮地成子氏（有）アレイス
が企画・運営

イランでの参加先

- ・ヘジスティア（キャラジ福祉省）
のBF担当部門
- ・参加者：キャラジ市他の市役所のBF担当など

第1日 研修

- ・日本の障害者基準（の基本事項）を説明・解説。
- ・日本の整備事例・失敗事例の紹介・解説
- ・ISO規格の標準用ブロックをアイマスクで体験

第2日 直い体験でBFまち歩きWS

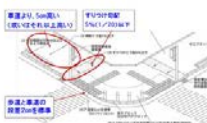
- ・整備対象の「マーハン通り」を直い体験でWS
- ・デフパルクを使用して道路入口の段差解消など
- ・問題点、BF整備課題のまとめ

第3日BF改善提案の検討方法

- ・まち歩きの見えと、BF改善提案の発表
- ・DVD「日本での直い使用者の生活」「江東区の町」



キャラジ市
人口170万人
テヘラン市
人口280万人



イラン・キャラジ市のBFまちづくり研修（2）



日本のバリアフリーの基準を学んだあと、①直い体験 ②車椅子でのま
ち歩きを行った。グループに分かれて現在の街並み、歩道、公共施設の階段、トイレ
などの問題点、課題を体験、検討した。
グループごとに③地図とポスター
を使って、問題点、課題の整理をしまし
た。



市山の問題点・課題が指摘されている。
歩道、ブリッジ、道路入口など。
問題点が整理されたので、改善の具体化は、ポイントを押さ
えて行える。



研修参加者の感想

- ・日本の整備基準についての理解。
- ・直い体験やアイマスクで標準用ブロックを体験したことにより理解が深まり、と
ても役に立っている。
- ・障害理解。階段、街の中で障害者に出会わないこと。
- ・広域の多い歩行距離の整備には、行政の責任も大きいこと。
- ・例：歩道や車道にある凸凹がとまで町の人々に苦痛を付けているのが分った。
- ・例：標準ブロックを使う目的が、もっとよく分った。
- ・例：数多くの障害者が同じ町に住んでいること、社会の一員だということを忘れな
い。

ペルシャ料理の紹介



典型的なイランの食事
★キヤバブ（クヒデキヤバブ） 牛肉、羊肉などの焼肉を串に巻き付けて焼いた
肉の 鶏肉との組み合わせなど、生のタマネギなど付け合わせ。
★ライス 日本米より粒長く、食感は軽い。サラダ油を入れて焼きあげる。
バター、焼きトマトなどと合わせる



ラディッシュ
、にらなどのハ
ーブをつまみな
がら、食事をする。
ハーブは欠か
せない。



食後にデザート
は付きもの。
もも、プラム、きゅうり
。スイカが定
味です。



①アプグーシュト 羊肉と野菜のトマト煮込み。スープを添え
し、肉や野菜を煮し、肉や野菜をつぶし、パンをちぎって、い
っしょに食べます。



②トルメ ヒーマンやトマトの詰め物。 中身は、豆とさん豆を使った
野菜の煮込み。 干しレモンが味を引き立てます。
ポテトサラダに載っているハラは、トマト、キュウリなどの野
菜で作っています。



2013 年日比谷公園にて

バリアフリー研修2013(1) 体験による気づき キャラジ市、キャハリザク



キャラジ市の障害者施設キャハリザクの職員、施設設計者が、アイマスクや車いすを使って、障害者の感覚を体験し、多くの気づきを得ることができました。

バリアフリー研修2013(2) キャラジ市、キャハリザク

日本の専門家による
バリアフリーワークショップ
江東区のまちづくりも紹介



バリアフリー研修2013(3) キャラジ市、テヘラン市

市の行政担当者と街歩き
日本の視覚障害者も参加



イランの訪問看護師医師との同行訪問実施 キャラジ市

福祉省とキャハリザクキャラジ
の看護師、床ずれ専門医が参加



一人一人のケースにあつた 床ずれ
処置と生活方法の相談を行いました



イランの訪問看護師医師ケースケア会議 キャハリザクキャラジの施設長とミーティング



イラン看護師医師との訪問実施 キャラジ市、キャハリザク



ミント会合員、協力者の看護教育者、訪問看護
師が、講師となって研修を行った。



福祉ケアに関する研修 キャハリザク（キャラジ市にある障害者施設）

たくさんの障害者と家族が集まりました



日本から送った福祉機器コンテナ やっと、イランの方々に使ってもらえるようになりました

障害者施設キャハリザクと
テヘラン脊損協会を、通じ
障害者の方々に送ります。



2014 年日比谷公園にて

ミントの会の紹介



成り立ち

理事長のバシャイ・モハメットはイランから日本に来て、働いていたときに事故に遭い、車いすの生活になってしまいました。
しかしイランにはもっと困っている人がたくさんいます。
そこで、周囲の人たちと一緒にイランの障害者に車椅子や介護ベッドなどの福祉機器を届けてきました。

2006年 任意団体として活動開始
2010年 NPO法人認証



活動実績

2014年8月までの実績

- 福祉機器の送付・使い方指導
- 車いす: 261台 電動車いす: 35台 電動介護ベッド: 25台
- リハビリDVDの作成・配布 620枚
- せき指ケア手帳の作成・配布 2000部
- 障害者の排泄・床ずれ予防のガイドブック 2000部
- リハビリ・介護の専門家の交流 のべ42人
- ユニバーサルカフェ、車いすクローブ、車いすクッション、スライトボード

連絡先 e-mail: mint_assist@yahoo.co.jp
ホームページ: http://www.mint-assist.com



私たちの活動

- ・ピアカウンセラーによる相談活動
電話、メール、直接訪問によって、障害者の日常生活の不安に添えています。
- ・福祉機器の寄贈
日本で寄付していただいた車いす・電動ベッドをイランへ
- ・バリアフリー研修
イラン地方自治体担当者に対してバリアフリーの街づくりのワークショップ
- ・子供のバリアフリー/ユニバーサルデザイン教室
- ・リハビリ・訪問看護専門家の患者宅訪問
- ・障害者の日常生活に役立つ研修活動、資料の配布
- ・専門家の交流
リハビリ・介護専門家の日本での研修
訪問看護についての研修

次の展開



寝たきりで家族がつききりで世話をしていた
今では生き生きと生活できるようになりました。



今、イランにミントの会の兄弟NGOを立ち上げる準備をしています。

イランミントの会 設立準備

イランでNGO登録申請中

名称: 「アンジョマネ ナノ」 (NNOミント)
目的: 「障害者が安全に行動でき、家族の負担が少なくなる生活ができるようになる」
活動内容: 日本の専門家による研修、協力、生活実態調査、相談活動、外出支援、リハビリなど



日本の自助グループ・日本ミントの会の活動紹介



ピアカウンセリング活動、互いの生活の話し合い



イランミントの会理事12名と会合
今後の活動について話し合う



イランミントの会に参加予定メンバーと意見交換

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業

障害者の参加するペルシャ料理教室

桑野市にて (2014)

ゲイメイ、モラッサボロ
クビデケバブ、ホロシュテアル
エスタンプリボロ



おこげポテト



モラッサボロ

押麦のスープ



クビデケバブで、バーベキュー



サフランライス

ゲイメイ



公益財団法人 俱進会 助成事業

バリアフリーワークショップ キャラジ市役所、キャラジ市内 (2014.6.14-17)

バリアフリー専門家
寺島さん(偽アークポイント)
福永さん、宮地さん(フレイス)
お願いしました。



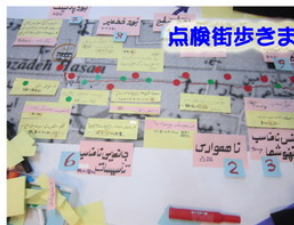
目隠し体験



車いす体験と問題の発見



日本のBF技術の紹介



点検街歩きまとめと改善案発表



公益財団法人 大阪コミュニティ財団支援事業

バリアフリーワークショップ報告会 キャラジ市役所にて

市長も参加してワークショップの報告会
新聞にも大きく掲載されました。



WS参加者、市役所職員などが出席



市長の挨拶もありました



寺島先生の講評



ワークショップの
主要メンバー

公益財団法人 大阪コミュニティ財団助成事業

在宅リハビリ訪問 キャラジ市 (2014.8.10-15)



寝たきりで自分では寝返りも不自由だった。
2時間の指導により、自分で寝返りが可能に。
車いすに乗りまじだ(右側め下)



難病のため呼吸が苦しい



子供たちが世話をしています

神奈川保健福祉大 玉垣先生による
障害者の自宅を訪問したリハビリ指導
16件のケース：脊髄損傷2、頸椎損傷4
神経難病6、頭部外傷2、腫瘍2



兄弟3人が神経難病

座位を保つ練習



寝たきりだったが
リハビリの後
車いすに座ることができました



頸部損傷からのリハビリ

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業、草の根市民基金・くらん 助成事業

リハビリテーション研修 福祉省 キャラジリハビリテーションセンター (2014.8.10)

神奈川保健福祉大学 玉垣先生が
日本のリハビリ技術の講習を行いました。
障害者、家族、介護者など参加者50名
うち医療従事者4名



介助者の体の使い方を実習。参加者から多くの質問があ
りました。



脊髄損傷者の不特定さを体験

リハビリ・介助について、実習による研修は
、本人、家族だけでなく専門家にも、興味を
引く内容でした。



リハビリ関係者も真剣な顔差し



研修テキストも配布しました

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業
草の根市民基金・くらん 助成事業

リハビリテーション研修 テヘラン 障害者スポーツセンター (2014.8.12)

テヘラン脊髄協会と協力して開催しました。
障害者、家族、介護者 105名
医療関係者 5名



広い体育館なので、多くの車いすの方に
乗ってもらえました



家族も熱心に観察



テヘラン脊髄協会役員 ミントの会会長
ゴメシイさん パンマイさん

介助者の体の使い方、障害者自身の寝返りの方法、ベッド上での体の移動
方法、ベッドと車いすの間の移動方法などについて、具体的に説明。
イマムホメイニ病院の医師、PT、イランミントの役員も参加。



テヘラン
障害者スポーツセンター

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業、草の根市民基金・くらん 助成事業

2015 年初めてのお台場プロムナード公園にて

ミントの会の紹介



成り立ち

理事長のバシャイ・モハメッドはイランから日本に来て、働いていたときに事故に遭い、車いすの生活になってしまいました。
しかしイランにはもっと困っている人がたくさんいます。
そこで、周囲の人たちと一緒にイランの障害者に車椅子や介護ベッドなどの福祉機器を届けてきました。

2006年 任意団体として活動開始
2010年 NPO法人認証



活動実績

2015年8月までの実績

- 福祉機器の送付・使い方指導
- 車いす：269台 電動車いす：45台 電動介護ベッド：27台
- リハビリDVDの作成・配布 620枚
- せき掛けアタッチメントの作成・配布 2000部
- 障害者の排泄・床ずれ予防のガイドブック 2000部
- リハビリ・介護の専門家の交流 のべ42人
- ユニバーサルカフェ、車いすクローブ、車いすクッション、スライトボード

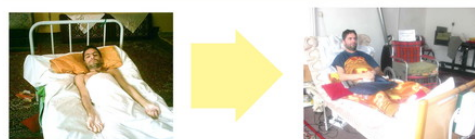
連絡先 e-mail: mint_assist@yahoo.co.jp
ホームページ: http://www.mint-assist.com



私たちの活動

- ・ピアカウンセラーによる相談活動
電話、メール、直接訪問によって、障害者の日常生活の不安に添えています。
- ・福祉機器の寄贈
日本で寄付していただいた車いす・電動ベッドをイランへ
- ・バリアフリー研修
イラン地方自治体担当者に対してバリアフリーの街づくりのワークショップ
- ・子供のバリアフリー/ユニバーサルデザイン教室
- ・リハビリ・訪問看護専門家の患者宅訪問
- ・障害者の日常生活に役立つ研修活動、資料の配付
- ・専門家の交流
リハビリ・介護専門家の日本での研修
訪問看護についての研修

次の展開



寝たきりで家族がつききりで世話をしていた
今では生き生きと生活できるようになりました。



今年の6月 ミントの会の兄弟NGOがイランで承認されました。

イランミントの会 活動準備

イランでNGO登録完了しました。

名称：「アフジョマネ ナノ」(NGOミント)
目的：「障害者が安全に行動でき、家族の負担が少ない生活ができるようになる」
活動内容：日本の専門家による研修、協力、生活実態調査、相談活動、外出支援、リハビリなど



新しい事務所
一番左側の区画です。



イランミントの会に参加予定メンバーと意見交換

現在の事務所。
パソコンの練習や
ゲーム機で遊ぶことができます。



リハビリテーション研修 テヘラン脊損協会 テヘラン障害者スポーツセンター (2015.7.22)

土屋辰夫先生（元ナリハ病院）
脊髄損傷者が注意すべきこと、心がけること
障害者、家族、介護者など参加者 約100名



力を入れる訓練も必要ですが
力を抜く訓練も必要です。
介護中の骨折も問題になって
います。

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業
草の根市民基金・くらん 助成事業

専門家研修 日本の現状 イマムホメイニ病院 (2015.7.21)

土屋辰夫先生（元ナリハ病院）
日本のリハビリテーションの歴史と現状を紹介
土屋まさみ先生（慈光会 包括支援センター）
日本の介護の現状を紹介



先生の話を聞くPTの
方々
先生がサインされ
た終了証書 ⇒

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業
草の根市民基金・くらん 助成事業

在宅リハビリ訪問 キャラジ市 (2014.8.10-15)

元神奈川リハビリテーションセンター 土屋辰夫先生による
障害者の自宅を訪問したリハビリ指導



いつもはベッドに寝だまりの個人。
現地PTの指導を受けていました。
土屋先生は、
車いすに座らせてストレッチ指導。

15歳の高校生
軟骨の病気により、骨が成長せず、あらゆる方向へ曲がっ
てしまいます。
お母さんに足がきちんとつけるようにリハビリを指導。

公益財団法人 日本国際協力財団 助成事業
草の根市民基金・くらん 助成事業

子供のバリアフリー教室

アフザリ小学校

アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生

バリアフリーって何？
伝え方、道具を工夫すれば
バリアはなくなる



ミントの食が初めて小学校へ
ジェスチャで伝えたり、
手振りでもかたり



障害者の使っている用具を体験
なるほど、なるほど
こういうところが大変なんだ。

公益財団法人
大阪コミュニティ財団助成事業
柏岡三三記念基金

子供のバリアフリー教室

地域のコミュニティ

アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生

地域の子供たちを備えて
バリアフリー教室



キャラジ市内の駐車場を使って
バリアフリーを楽しく体験

公益財団法人
大阪コミュニティ財団助成事業
柏岡三三記念基金

バリアフリー検証・公園の設計

キャラジ市内

アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生

キャラジ市は、2012年よりバリアフリー
研修を実施し、具体的な街づくり事例を
作ってきました。



アラブ市担当者とキャラジ市の事例検証
180規格の誘導ブロックの敷設道路に

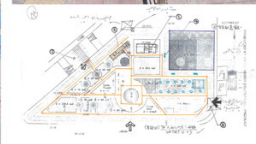


車道を走るのそーつで歩道ですが、
お店を利用するのが目的はす。

JICA助成事業



キャラジ市が進めているバリアフリー公園の設計
に、当事者参加の考え方が採用された。
日本の誘導ブロックの敷設、車いすトイレの設置
など、共同の成果が生きています。



2016 年お台場プロムナード公園にて

ミントの会の紹介



成り立ち

理事長のバシャイ・モハメッドはイランから日本に来て、働いていたときに事故に遭い、車いすの生活になってしまいました。しかしイランにはもっと困っている人がたくさんいます。そこで、周囲の人たちといっしょにイランの障害者に車椅子や介護ベッドなどの福祉機器を届けてきました。

2006年 任意団体として活動開始
2010年 NPO法人認証



活動実績

2016年8月までの実績

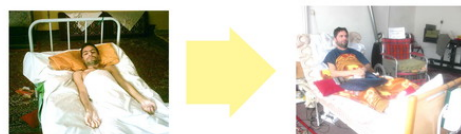
- ・福祉機器の送付・使い方指導
車いす：274台 電動車いす：49台 電動介護ベッド：32台
- ・リハビリDVDの作成・配布 620枚
- ・せき指ケア手帳の作成・配布 2000部
- ・障害者の排泄・床ずれ予防のカートブック 2000部
- ・リハビリ・介護の専門家の交流 のべ52人
- ・ユニバーサルカフ、車いすクッション、スライトボード エアマットレス

連絡先 e-mail: mint_assist@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://www.mint-assist.com>



私たちの活動

- ・ピアカウンセラーによる相談活動
電話、メール、直接訪問によって、障害者の日常生活の不安に添えています。
- ・福祉機器の寄贈
日本で寄付していただいた車いす・電動ベッドをイランへ
- ・バリアフリー研修
イラン地方自治体担当者に対してバリアフリーの街づくりのワークショップ
- ・子供のバリアフリー/ユニバーサルデザイン教室
- ・リハビリ・訪問看護専門家の患者宅訪問
- ・障害者の日常生活に役立つ研修活動、資料の配布
- ・専門家の交流
リハビリ・介護専門家の日本での研修
訪問看護についての研修
- ・クリーンキャンペーン
イランの障害者といっしょに、暮らしやすい街づくり



寝たきりで家族がつききりで世話をしていた
今では生き生きと生活できるようになりました。



今後も、街のバリアフリーが進むために、また、障害者の生活が明るくなるように、活動を展開します。

イランの新聞、Web Siteに ミント会が取り上げられています。



アルボース州の新聞に、日本の専門家による、キャラジ市担当者へのバリアフリー研修が大きく取り上げられました。



クリーンキャンペーンを紹介。イランでは、ゴミ捨て場がゴミが乱雑。日本は、イランと違い、小学生から教室の掃除をしていることにも言及しています。



アルボース州の新聞に掲載。ミントの会の看護師・OTの障害、福祉への意識と情熱を述べました。



イランの新聞を日本で読んでいますと紹介



キャラジ市役所のブログにHP上にミントの会の活動が掲載されました。(バゲスタン公園記念植樹会、研修会打合せ等)

バリアフリー研修 in キャラジ

2016/4/30-5/1,2

アーキポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生

座学、簡易ブロック体験後、街に出て、市担当者自ら車いすに乗り、現場を体験し、グループで課題を整理し、今回は、改修前まで検討した。



具体的な改修案について提案をまとめました。



簡易ブロックの機能、車いすの操作などを体験した後、街に出て、整備予定のある歩道を歩いて、車いす利用者、視覚障害者にとっての課題を発見、確認します。



日本国際協力システム (JICS) 助成事業

バリアフリー研修 in シーラース

2016/5/7,8

アーキポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生

座学、簡易ブロック、車いす体験、現場当事者といっしょに街に出て、現場を体験し、グループで課題を整理し、改修前まで検討した。



車いすの方が公園でくつろいでいました。



ベルセポリスはシーラースの近くです。



具体的な改修案が、次々とまとめられました。技術者としてのレベルの高さを感じました。



日本国際協力システム (JICS) 助成事業

子供のバリアフリー教室

アーキポイント 寺島先生
テヘラン青年協会の会・モハームの会・ノシャール プレイス 福永先生 宮地先生
ミンツの会

バリアフリーって何？
伝え方、道具を工夫すればバリアはなくなる



ユニバーサルデザインを理解すれば、障害が障害でなくなる。ジェスチャーで伝えたり、手探りで確かめられる工夫、車いす、簡易ブロックの体験など、楽しみながら学習します。



日本国際協力システム (JICS) 助成事業

褥瘡ケア・リハビリ研修
 テヘラン腎臓協会 ベヘジシティ・キャラジ
 (2016/7/17 7/20)

ミントの会の看護師・作業療法士が
 褥瘡の理解とケア、予防方法、および動作
 とリハビリ体操の研修を行いました。
 障害者、家族、介護者など参加者 約100名



テヘラン腎臓協会の皆さん



ベヘジシティにキャラジにて
 所長のサファイ医師も参加しました。



血圧測定と自働具の紹介も行いました



休憩時間にも熱心に相談されていました

日本国際協力財団 助成事業

在宅リハビリ訪問
 キャラジ市 (2016/7/19-22)

ミントの会の看護師と作業療法士が、ベヘジシティの紹
 介で、キャラジ市内の患者さんのお宅を訪問した。



ほとんどの患者さんに褥瘡がありました。創部の
 清潔とエアマット等による圧力の話をしました。

日本国際協力財団助成事業

クリーンキャンペーン
 モハームの会・テヘラン腎臓協会・ベヘジシティ・キャラジ

ゴミが多いことは非常に残念
 研修会後、参加者に提案し、いっしょに行いました。



日本国際協力システム (JICS)

日本国際協力財団 助成事業

2017 年お台場プロムナード公園にて

リアフリー研修 2017 (No. 1)

アルダビール

(2017. 4. 8-10)

(株)アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生



イランの位置



バリアフリー会議



市街地のBF施設



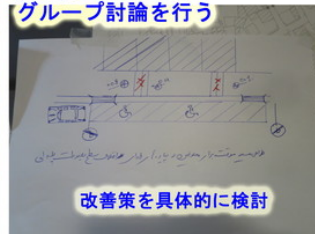
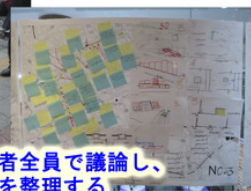
市のBF担当者と障害当事者が約50人
集合し、ミントの会が研修を実施



BF設備の基準、誘導ブロックを体験した後、
車いすに乗り、街中を実際に歩きながら、課
題を抽出



参加者全員で議論し、
課題を整理する
グループ討論を行う



改善策を具体的に検討

バリアフリー研修 2017 (No. 2)

カラジ市 テヘラン市福祉省

(2017. 4. 11-17)

(株)アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生



カラジ市のあるアルボズ州の知事と面談し、
ミントの会のBF研修について、感謝された。



街歩きは、ワークショップのなか
めです。



テヘラン市の福
祉省で障害当事
者を中心に、BF
研修を行った。



カラジ市職員へBF研修。
モデル地域の街歩きから
改善点、改善方法を検討



研修の終盤には、かなり具体的な
改善案が出されました。



リハビリ研修(1)

ベヘジシティ全国研修会 in ヤズド
(2017/9/17、18)

イランの福祉機関ベヘジシティからミントの会に、全国研修会講師の依頼があり、障害者の生活支援について、元神奈川リハビリセンターの土屋辰夫先生、厚木市の包括支援センター厚木慈光会土屋まさみさんが講演しました。



イランの各州のベヘジシティ担当者が一同に会しました。



研修を行った土屋先生がイランテレビ局のインタビューを受けました。



参加者は熱心な眼差しでした。



ベヘジシティ幹部の挨拶がありました。



研修会の終了後ヤズド観光が行われました。

日本国際協力財団 助成事業

リハビリ研修(2)

ベヘジシティ全国研修会 in ヤズド
NPOナセリ (アルボーズ州 2017/9/20)

ベヘジシティ全国研修会2日目は、住宅改修のワークショップと介護保険制度の紹介。
そして、イランNPOナセリでは、褥瘡、排泄、スポーツと社会参加の研修を行いました



日本の介護保険制度を説明し、日本の家を題材にして、住宅改修のワークショップを行いました。



障害者の動線、障害の状況を考慮し、グループごとに検討し、発表しました。



キャラジ近郊のNPOナセリ ミントの会のマークで迎えてくれました。



褥瘡と排泄、そして社会参加は、障害者にとって、もっとも重要です。



障害者本人が、元気に暮らせるように。

日本国際協力財団 助成事業

患者宅訪問 キャラジ、テヘラン (2017/9/19-22)

日本の理学療法士、看護師、作業療法士が、テヘラン市、キャラジ市内の患者さんのお宅を訪問しました。



エレベーターの落下で足を骨折、本人はリハビリに積極的でした。



褥瘡、拘縮などを有する患者さん。家族は、全く献身的にお世話をされていました。適切な治療がなされることを願っています。



日本国際協力財団助成事業

イラン市街地でクリーンキャンペーン

障害者が街に出て、路上のゴミを拾う活動を行っています。イランの障害者団体NGOナセリヤ、キャラジ市役所の賛同者など、活動が広がっています。



障害者自身の街に出る機会となり、まちづくりに主体的に参加していることをアピールしました

ヤズドの名跡



沈黙の塔



風の塔



2018 年お台場プロムナード公園にて

駐イラン日本領事表彰・国内活動 (2018)

ミントの会



2018年1月、在イラン日本国大使館で、在外公館長表彰授与式が行われ、小林大使よりバシヤイ理事長が表彰されました。テザリアーハリ前駐日イラン大使をはじめ、イランでの仲間からも祝福していただきました。



イランの障害者といっしょに楽しみたいので、ポッチャを体験しました。
10月末にキャラジでやります。



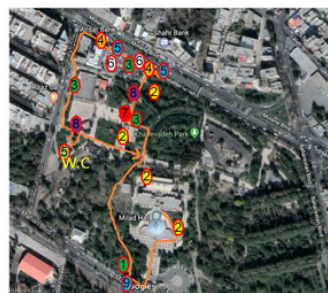
神奈川県立茅ヶ崎高校1年生約300人を前に、「外国人として、障害者として」講演。
(神奈川国際交流財団多文化共生事業)

バリアフリー研修2018 (2018.4.27-5.10)

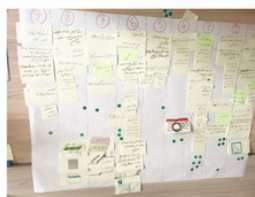
(株)アークポイント 寺島先生
プレイス 福永先生 宮地先生



キャラジ市の行政担当者に対して、基礎編3日間、上級編3日間、市民の集まる公園を街歩きの現場として、ワークショップを行いました。



- ① 標識の設置
- ② 適切な材料の使用
- ③ 手すりを設ける
- ④ 適切な勾配の表面
- ⑤ トイレ施設の改修
- ⑥ 障害者用駐車場の設定
- ⑦ ルートの勾配を修正
- ⑧ スポーツ施設の改修
- ⑨ 敷水設備改修



研修結果に基づいて、歩道、施設の改修が行われました。



日本国際協力財団 助成事業

イランの障害者に対する活動 (2018)

ミントの会



キャラジ市でバス旅行を実施。歩行障害、車いす利用者など多数の参加者がありました。皆で食事を楽しみました。

日本国際協力財団 助成事業



NGOナセリが主催したイランの障害者の交流会。ダーツ、卓球、綱引き 楽しそうです。



ミントの会からベッドや車いす、リフトなどを支援できた方達



イラン・キャラジ・アモール (2018)

ミントの会



キャラジはテヘランから車で1時間。私たちの本拠地です。



アルボルズ山脈を越えて、山間の街をみながら、カスピ海へ降りていくと、アモールに着く。民宿では、民族衣装を着て、カスピアンホースに乗った。テヘランでは想像も出来ない、稲を育てる水田が広がっている。



米の貯蔵には欠かせないスミ返しのある高床式の倉庫が、今も使われていました。



キャラジ市で導入したノンステップバス。今年、7台購入したそうです。



2019 年お台場プロムナード公園にて

バリアフリー本邦研修

JICA横浜 秦野市 江東区 世田谷区 エコモ財団 (2019. 7. 3-13)

キャラジ市役所のバリアフリー担当者、州福祉担当者に日本の状況を伝えました。



JICA横浜を本拠地として、ほぼ一週間の滞在の間、道路、標識、表示、役所による建築設計監理、公民館など、道路のバリアフリーだけでなく、市民の暮らしについて、体験してもらいました。



世田谷区役所の施設建設相談ロールプレイング



車いすでも遊べる砂場。



一歩進んで、心のバリアフリーについて。



交通事業者のバリアフリー研修は？
エコモ財団

JICA 草の根技術協力事業

バリアフリー研修2019

キャラジ市 (2019. 4. 16-30)

(株)アークポイント 寺島
(有)プレイス 福永 宮地



初めてキャラジ市役所の担当者が、中心となって、街歩き、障害の特性による課題の発見、検討を行いました。



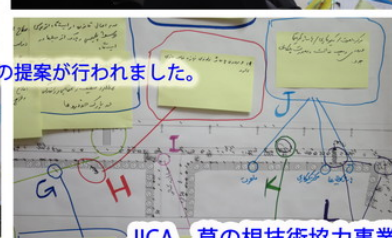
キャラジ市役所担当者によるワークショップの運営にチャレンジ人材の育成が重要なテーマです。



歓迎されています。



多くの課題を発見し、様々な改善策の提案が行われました。



JICA 草の根技術協力事業

当事者の交流団体へのボッチャ普及 キャラジ市 NGOナセリ

2018年に当事者団体NGOナセリ
へボッチャを紹介。
以後、継続的に当事者交流のアイ
テムになっています。



日本国際協力財団 支援事業

在宅訪問リハ・看護2019 キャラジ市 (2019. 10. 27-11. 8)

頭髄損傷、片麻痺、神経難病など
の在宅の患者を訪問し、リハビリ手
法、褥瘡ケアの方法など、相談を受
けました。



日本のお年寄りの作った折り
紙を、日本のお土産としてプレ
ゼントしました。

お手製スマ小自助具

日本国際協力財団 支援事業

子供のバリアフリー研修2019 キャラジ市

キャラジ市役所職員や当事
者団体を巻き込んでユニバー
サルデザインを考えました。



キャラジ市の小学校で子供たちの障害学習ワークショップ、ワークショップ
児童に障害者の困難を知る機会として、体験型のワークショップを実施しました。

ユニバーサルデザインクイズ

JICA 草の根技術協力事業

あとがき

2020 年 1 月に 10 周年を迎えることができ、この記念誌を作成して多くの振り返りの機会となりました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。

多くの方たちのご協力があったからこそここまで続けることができたことに深く感謝いたします。

10 周年記念に「イラン風バーベキューをやりたい」「みんなで集まって踊りや歌で盛り上がりたい」という声もありましたが、この時期コロナウイルス感染拡大により外出自粛でかえないませんでした。また機会があれば直接お会いして皆様からのご助言をいただき、楽しみたいと思います。

「継続は力なり」その言葉をかみしめながら、これからも活動に力を注ぎたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 5 月吉日

NPO イランの障害者を支援するミントの会



✽連絡先✽

イランの障害者を支援するミントの会

TEL :080-3496-3423

e-mail :mint_assist@yahoo.co.jp

URL : www.mint-assist.com

✽会員

・個人 500 円/月

・団体 1000 円/月

✽募金

・郵便局 00210-8-53361

ミントの会（ミントノカイ）

・銀行振込

みずほ銀行 秦野支店 普通口座 1996349

特定非営利活動法人

イランの障害者を支援するミントの会